認定看護師教育基準カリキュラム
（特定行為研修を組み込んでいない教育課程：A 課程教育機関）
改正概要

分野	救急看護		
分野特定年	1995 年	認定開始年	1997 年
カリキュラム検討期間	2018 年 6 月～2019 年 3 月		

【改正趣旨】

救急看護分野の教育基準カリキュラムは 2012 年度の改正から 6 年が経過したため、見直しを行った。その結果、1 教科目の時間数は研修者の負担を考慮し 15 時間または 30 時間を基本にするという考え方に基づき、60 時間で設定されていた教科目「救急患者のフィジカルアセスメント」は「救急患者のフィジカルアセスメントⅠ」と「救急患者のフィジカルアセスメントⅡ」に 2 分割し、各 30 時間の設定に変更した。75 時間で設定されていた教科目「救急看護技術」は、「救急看護技術Ⅰ」「救急看護技術Ⅱ」「救急看護技術Ⅲ」の 3 つに分割し、15 時間または 30 時間の設定に変更した。

また、新たな単元「救急初療における臨床推論」を教科目「救急患者のフィジカルアセスメントⅠ」に追加した。その他、急性期症状の主な症状に外傷、熱傷、急性中毒を追加する等、単元を一部変更した。

【主な改正箇所】　※詳細は別紙「新旧対照表」参照

1. 目的（p. 1）

認定看護師の役割に沿って文言を整理した。

2. 期待される能力（p. 1）

他の分野と揃え、表記を整理した。

3. 専門基礎科目

・旧の教科目 1「救急看護概論（p. 3）」の単元 4）「救急医療と医療経済」を「救急医療政策と医療経済」に変更し、政策を含めた。
・旧の教科目 4「災害急性期看護（p. 4）」の単元 2）「災害時の危機管理と 3Ts（Triage、Treatment、Transportation）」を「災害時の危機管理と対応」に変更し、3Ts に限定しないこととした。

4. 専門科目

・旧の教科目 1「救急患者のフィジカルアセスメント（p. 5）」（60 時間）を教科目 1「救急患者のフィジカルアセスメントⅠ」（30 時間）と教科目 2「救急患者のフィジカルアセスメントⅡ」（30 時間）の 2 つの教科目に分けた。
・教科目 1「救急患者のフィジカルアセスメントⅠ」に新たな単元「救急初療における臨床推論」を追加した。また、単元 2）の急性症状の主な症状を括弧書きで追加し、その内容は教科目「急性症状とケア」の急性症状の主な症状と同じ内容とした。
・旧の教科目 2「救急看護技術（p. 5）」（75 時間）の教科目のねらいを整理し、教科目 3「救急看護技術Ⅰ」（30 時間）、教科目 4「救急看護技術Ⅱ」（30 時間）、教科目 5「救急看護技術Ⅲ」（15 時間）の 3 つの教科目に分けた。
・旧の教科目 3「急性症状とケア（p. 6）」の単元 1）の急性症状への対応の主な症状に「外傷」「熱傷」「急性中毒」を追加した。

認定看護師教育基準カリキュラム（特定行為研修を組み込んでいない教育課程：A 課程教育機関）
新旧対照表（救急看護分野）

改正箇所：下線部

【目的・期待される能力】

旧	新	改正理由
（目的） 1. 救急医療における患者とその家族のQOL向上に向けて、水準の高い看護を実践する能力を育成する。 2. 救急看護分野において看護実践を通して他の看護職者に対して指導・相談ができる能力を育成する。	（目的） 1. 救急医療における患者とその家族の QOL 向上に向けて、熟練した看護技術を用いて水準の高い看護実践ができる能力を育成する。 2. 救急看護分野において看護実践を通して他の看護職者に対して指導ができる能力を育成する。 3. 救急看護分野において看護実践を通して他の看護職者に対して相談対応・支援ができる能力を育成する。	・旧の目的1は、他分野と揃え文言を整理した。 ・旧の目的 2 に「指導」と「相談」の 2 つの役割が入っていたため、新の目的 2 と 3 に分けた。また、他分野と揃え文言を整理した。
（期待される能力） 1. 救急医療を必要とする小児から高齢者、妊産婦に対し、発達段階における特徴を踏まえ迅速かつ的確なフィジカルアセスメントを実践することができる。 2. 救急患者の病態に応じて、問題の優先順位を迅速に判断し、適切な初期対応技術を実践することができる。 3. 刻々と変化する重症救急患者の病態に対応し、効果的かつ安全な全身管理技術を実践することができる。 4. 救急医療を必要とする対象の権利を擁護し、安全かつ的確な救急看護を実践することができる。 5. 救急医療を必要とする患者と家族の心理・社会的状況をアセスメントして、支援することができる。 6. 災害医療現場において、医療ニーズを迅速に判断し、他職種と連携し実践することができる。 7. より質の高い救急医療を推進するため、救急看護実践の場において、リーダーシップを発揮し、他職種との協働を調整できる。 8. 救急看護実践を通して、救急医療における看護の役割モデルを示し、看護職者への指導・相談を行うことができる。	（期待される能力） 1. 救急医療を必要とする小児から高齢者、妊産婦に対し、発達段階における特徴を踏まえ迅速かつ的確なフィジカルアセスメントを実践することができる。 2. 救急患者の病態に応じて、問題の優先順位を迅速に判断し、適切な初期対応技術を実践することができる。 3. 刻々と変化する重症救急患者の病態に対応し、効果的かつ安全な全身管理技術を実践することができる。 4. 救急医療を必要とする対象の権利を擁護し、自己決定を尊重した看護を実践できる。 5. 救急医療を必要とする患者と家族の心理・社会的状況をアセスメントして、支援することができる。 6. 災害医療現場において、医療ニーズを迅速に判断し、他職種と連携し実践することができる。 7. より質の高い救急医療を推進するため、救急看護実践の場において、リーダーシップを発揮し、多職種との協働を調整できる。 8. 救急看護実践を通して、救急医療における看護の役割モデルを示し、看護職者への指導・相談対応を行うことができる。	・旧のねらい 4 は、他分野と表現を揃え変更した。 ・旧のねらい7の「他職種」は、看護職を含めた多くの職種との協働の意味を表すため、他分野と揃え変更した。 ・旧のねらい 8 の文言を他分野と揃え表記を整理した。

認定看護師教育基準カリキュラム（特定行為研修を組み込んでいない教育課程：A 課程教育機関）
新旧対照表（救急看護分野）

改正箇所：下線部

【共通科目】

旧		新		改正理由
教科目	時間数 必修/選択	教科目	時間数 必修/選択	
1. 医療安全学：医療倫理	15（必修）	1. 医療安全学：医療倫理	15（必修）	2018 年度共通科目改正のとおり変更した。
2. 医療安全学：医療安全管理	15（必修）	2. 医療安全学：医療安全管理	15（必修）	
3. 医療安全学：看護管理	15（必修）	3. 医療安全学：看護管理	15（必修）	
4. 臨床薬理学：薬理作用	15（必修）	4. 臨床薬理学：薬理作用	15（必修）	
5. チーム医療論（特定行為実践）	15（必修）	5. チーム医療論（特定行為実践）	15（必修）	
6. 相談（特定行為実践）	15（必修）	6. 相談（特定行為実践）	15（必修）	
7. 指導	15（必修）	7. 指導	15（必修）	
8. 医療情報論	15（必修）	8. 医療情報論	15（選択）	
9. 臨床薬理学：薬物動態	15（選択）	9. 臨床薬理学：薬物動態	15（選択）	
10. 臨床薬理学：薬物治療・管理	30（選択）	10. 臨床薬理学：薬物治療・管理	30（選択）	
11. 特定行為実践	30（選択）	11. 特定行為実践	15（選択）	
12. 対人関係	15（選択）	12. 対人関係	15（選択）	
13. 臨床病態生理学	45（選択）	13. 臨床病態生理学	40（選択）	
14. 臨床病態生理学演習	15（選択）	14. 臨床推論	45（選択）	
15. 臨床推論	45（選択）	15. 臨床推論：医療面接	15（選択）	
16. 臨床推論：医療面接	15（選択）	16. フィジカルアセスメント：基礎	30（選択）	
17. フィジカルアセスメント：基礎	30（選択）	17. フィジカルアセスメント：応用	30（選択）	
18. フィジカルアセスメント：応用	30（選択）	18. 疾病・臨床病態概論	40（選択）	
19. 疾病：臨床病態概論：5 疾病	30（選択）	19. 疾病・臨床病態概論：状況別	15（選択）	
20. 疾病・臨床病態概論：その他の主要疾患	30（選択）			
21. 疾病・臨床病態概論：年齢別・状況別	30（選択）			
計	120（＋360）	計	105（＋305）	

認定看護師教育基準カリキュラム（特定行為研修を組み込んでいない教育課程：A 課程教育機関）
新旧対照表（救急看護分野）

改正箇所：下線部

【専門基礎科目】 ※ゴシック体表記は、集中ケアまたは新生児集中ケアとの合同講義が可能な単元

旧				新				改正理由
教科目	時間数	教科目のねらい	単元	教科目	時間数 必修/選択	教科目のねらい	単元	
1. 救急看護概論	30	1）救急医療の変遷と現状を知り、特徴的な倫理・社会的問題、法的知識、医療経済、チーム医療と医療連携、救急医療政策などについて理解できる。 2）救急看護の特徴と機能を知り、救急看護認定看護師の役割について理解できる。 3）救急医療に必要なリスクマネジメントについて理解できる。	1）救急医療の変遷と現状 2）救急医療に特徴的な倫理・社会的問題（救急領域の意思決定支援、救急領域の終末期ケア、移植医療、虐待、DV 等への対応を含む） 3）救急医療・看護に必要な法的知識 4）救急医療と医療経済 **5）救急医療における専門職の連携と協働** 6）救急看護の特徴と機能 7）救急医療における看護機能と救急看護認定看護師の役割 8）救急医療におけるリスクマネジメント **（感染予防対策、生命維持装置の安全対策）** （暴言暴力への対応を含む）	1. 救急看護概論	30 （必修）	1）救急医療の変遷と現状を知り、特徴的な倫理・社会的問題、法的知識、医療経済、チーム医療と医療連携、救急医療政策などについて理解できる。 2）救急看護の特徴と機能を知り、救急看護認定看護師の役割について理解できる。 3）救急医療に必要なリスクマネジメントについて理解できる。	1）救急医療の変遷と現状 2）救急医療に特徴的な倫理・社会的問題（救急領域の意思決定支援、救急領域の終末期ケア、移植医療、虐待、DV 等への対応を含む） 3）救急医療・看護に必要な法的知識 4）救急医療政策と医療経済 **5）救急医療における専門職の連携と協働** 6）救急看護の特徴と機能 7）救急医療における看護機能と救急看護認定看護師の役割 8）救急医療におけるリスクマネジメント **（感染予防対策、生命維持装置の安全対策）** （暴言暴力への対応を含む）	・ねらいに救急医療政策を含むため、旧の単元 4)「救急医療と医療経済」を「救急医療政策と医療経済」に変更した。
2. 救急患者の主要病態と治療	30	1）救急患者の主要な健康問題の病態生理や生体反応のメカニズムについて理解できる。 2）救急患者の主要な健康問題の診断、エビデンスに基づく最新の治療について理解できる。 3）侵襲と生体反応を踏まえ、身体的査定に関連する臨床検査、画像評価、栄養評価の方法を理解できる。	1）脳卒中の病態と治療 2）急性呼吸不全の病態と治療 3）急性循環不全の病態と治療 4）急性腹症の病態と治療 5）多臓器障害の病態と治療 6）外傷の病態と治療 7）熱傷の病態と治療 8）急性中毒の病態と治療 9）急性精神症状の病態と治療 **10）侵襲と生体反応** **11）臨床検査、画像評価、栄養評価**	2. 救急患者の主要病態と治療	30 （必修）	1）救急患者の主要な健康問題の病態生理や生体反応のメカニズムについて理解できる。 2）救急患者の主要な健康問題の診断、エビデンスに基づく最新の治療について理解できる。 3）侵襲と生体反応を踏まえ、身体的査定に関連する臨床検査、画像評価、栄養評価の方法を理解できる。	1）脳卒中の病態と治療 2）急性呼吸不全の病態と治療 3）急性循環不全の病態と治療 4）急性腹症の病態と治療 5）多臓器障害の病態と治療 6）外傷の病態と治療 7）熱傷の病態と治療 8）急性中毒の病態と治療 9）急性精神症状の病態と治療 **10）侵襲と生体反応** **11）臨床検査、画像評価、栄養評価**	

認定看護師教育基準カリキュラム（特定行為研修を組み込んでいない教育課程：A 課程教育機関）
新旧対照表（救急看護分野）

改正箇所：下線部

旧				新				改正理由
教科目	時間数	教科目のねらい	単元	教科目	時間数 必修/選択	教科目のねらい	単元	
3. 救急患者と家族の心理･社会的アセスメント	30	1）救急医療を必要とする患者･家族の心理と社会的状況について、関連する中範囲理論を活用して理解できる。 2）理論に基づく心理・社会的アセスメントの実際が理解できる。	1）救急医療を必要とする患者・家族の心理・社会的状況の理解 **（1）ストレスコーピング理論** **（2）危機理論** （3）家族理論 （4）看護に活用できる心理・社会的理論 （ニード論、悲嘆の理論、役割理論、カウンセリング理論など） 2）理論に基づく心理・社会的アセスメントの実際	3. 救急患者と家族の心理・社会的アセスメント	30 （必修）	1）救急医療を必要とする患者･家族の心理と社会的状況について、関連する中範囲理論を活用して理解できる。 2）理論に基づく心理・社会的アセスメントの実際が理解できる。	1）救急医療を必要とする患者・家族の心理・社会的状況の理解 **（1）ストレスコーピング理論** **（2）危機理論** （3）家族理論 （4）看護に活用できる心理・社会的理論 （ニード論、悲嘆の理論、役割理論、カウンセリング理論など） 2）理論に基づく心理・社会的アセスメントの実際	
4. 災害急性期看護	30	1）災害医療・看護の概要を理解できる。 2）災害時の危機管理と医療対応の原則、意思決定プロセスの展開、3Ts の方法を理解できる。 3）災害急性期の看護の対象や環境、看護実践の特徴を理解できる。 4）事前対策の重要性を理解し、施設・設備、備蓄の点検や教育・訓練を継続・発展させていく方略を理解できる。	1）災害と医療 2）災害時の危機管理と 3Ts（Triage、Treatment、Transportation） 3）災害急性期の看護の役割 4）施設の事前対策と教育・訓練	4. 災害急性期看護	30 （必修）	1）災害医療・看護の概要を理解できる。 2）災害時の危機管理と医療対応の原則、意思決定プロセスの展開を理解できる。 3）災害急性期の看護の対象や環境、看護実践の特徴を理解できる。 4）事前対策の重要性を理解し、施設・設備、備蓄の点検や教育・訓練を継続・発展させていく方略を理解できる。	1）災害と医療 2）災害時の危機管理と対応 3）災害急性期の看護の役割 4）施設の事前対策と教育・訓練	・旧の単元 2)「災害時の危機管理と 3Ｔｓ」の「3Ｔｓ」を「対応」に変更し、「3Ｔｓ」に限定しないこととした。
計	120			計	120			

認定看護師教育基準カリキュラム（特定行為研修を組み込んでいない教育課程：A 課程教育機関）
新旧対照表（救急看護分野）

改正箇所：下線部

【専門科目】

旧				新				改正理由
教科目	時間数	教科目のねらい	単元	教科目	時間数 必修/選択	教科目のねらい	単元	
1. 救急患者のフィジカルアセスメント	60	1) 生体の構造と機能等をふまえ、急性症状からみたフィジカルアセスメントを理解し、実践できる。 2) 小児・高齢者・妊産婦の特徴を捉えたフィジカルアセスメントを理解し、実践できる。	1) 生体の構造と機能 2) 急性症状からみたフィジカルアセスメント 3) 小児・高齢者・妊産婦のフィジカルアセスメント	1. 救急患者のフィジカルアセスメントⅠ	30 （必修）	生体の構造と機能等をふまえ、急性症状からみたフィジカルアセスメントを理解し、実践できる。	1) 生体の構造と機能 2) 急性症状（意識障害、外傷、熱傷、急性中毒、けいれん、呼吸困難、動悸、発熱、下痢、嘔吐、急性疼痛など）からみたフィジカルアセスメント 3) 救急初療における臨床推論	・旧の教科目「救急患者のフィジカルアセスメント」の 60 時間は 1 教科目として長時間であるため、「救急患者のフィジカルアセスメントⅠ」、「救急患者のフィジカルアセスメントⅡ」の 2 つの教科目に分割した。 ・新の教科目「救急患者のフィジカルアセスメントⅠ」の単元 3）の「急性症状」の主な症状を括弧書きで追加した。 ・救急患者のフィジカルアセスメントにおいて臨床推論の学習は必要なため、新の教科目「救急患者のフィジカルアセスメントⅠ」の単元 3）に「救急初療における臨床推論」を追加した。 ・新の教科目「救急患者のフィジカルアセスメントⅡ」では、旧の単元 3）の「小児・高齢者・妊産婦のフィジカルアセスメント」を小児、高齢者、妊産婦の 3 つの単元にした。
				2. 救急患者のフィジカルアセスメントⅡ	30 （必修）	小児・高齢者・妊産婦の特徴を捉えたフィジカルアセスメントを理解し、実践できる。	1) 小児のフィジカルアセスメント 2) 高齢者のフィジカルアセスメント 3) 妊産婦のフィジカルアセスメント	
2. 救急看護技術	75	1) 軽症から重症に至る救急患者に対し、プレホスピタルケアを含む初期対応から退院・帰宅後の生活を見据えた看護技術を実践できる。 2) エビデンスに基づく、効果的かつ安全な実践ができるように、シミュレーションなどを用いた実践能力を身につける。	1) 初期対応技術 (1) 救急外来でのトリアージ (2) 救急処置 （ファーストエイドおよび一次・二次救命救急処置を含む） 2) 重症救急患者管理技術 (1) 呼吸管理（呼吸理学療法を含む） (2) 循環管理 (3) 中枢神経系管理 (4) 体液管理 (5) 創傷管理 (6) ペインコントロールと鎮静 3) 救急患者への健康管理指導 4) 急性期リハビリテーション	3. 救急看護技術Ⅰ	30 （必修）	救急患者のプレホスピタルケアを含む初期対応技術を実践できる。	1) 初期対応技術 (1) 救急外来でのトリアージ (2) 救急処置 （ファーストエイドおよび一次・二次救命救急処置を含む）	・旧の教科目「救急看護技術」の 75 時間は 1 教科目として長時間であるため、「救急看護技術Ⅰ」、「救急看護技術Ⅱ」、「救急看護技術Ⅲ」の 3 つの教科目に分割した。
				4. 救急看護技術Ⅱ	30 （必修）	重症救急患者に対しエビデンスに基づき効果的かつ安全な管理技術が実践できる。	1) 重症救急患者管理技術 (1) 呼吸管理（呼吸理学療法を含む） (2) 循環管理 (3) 中枢神経系管理 (4) 体液管理 (5) 創傷管理 (6) ペインコントロールと鎮静 ※シミュレーション等含む。	
				5. 救急看護技術Ⅲ	15 （必修）	救急患者の退院・帰宅後の生活を見据えた健康管理指導及び急性期のリハビリテーションを実践できる。	1) 救急患者への健康管理指導 2) 急性期リハビリテーション	

認定看護師教育基準カリキュラム（特定行為研修を組み込んでいない教育課程：A 課程教育機関）
新旧対照表（救急看護分野）

改正箇所：下線部

旧				新				改正理由
教科目	時間数	教科目のねらい	単元	教科目	時間数 必修/選択	教科目のねらい	単元	
3. 急性症状とケア	15	1) 救急患者の急性症状に対し、症状進行予防、症状緩和、また合併症予防に向けた安全かつ有効な救急看護を実践できる。 2) 患者と家族の心理・社会的アセスメントを踏まえたメンタルケアを実践できる。	1) 急性症状への対応 （意識障害、けいれん、呼吸困難、動悸、発熱、下痢、嘔吐、急性疼痛など） 2) 患者と家族へのメンタルケア	6. 急性症状とケア	15 （必修）	1) 救急患者の急性症状に対し、症状進行予防、症状緩和、また合併症予防に向けた安全かつ有効な救急看護を実践できる。 2) 患者と家族の心理・社会的アセスメントを踏まえたメンタルケアを実践できる。	1) 急性症状への対応 （意識障害、外傷、熱傷、急性中毒、けいれん、呼吸困難、動悸、発熱、下痢、嘔吐、急性疼痛など） 2) 患者と家族へのメンタルケア	・単元 1)「急性症状への対応」の括弧内の主な急性症状に救急分野に特徴的な「外傷」、「熱傷」、「急性中毒」を追加した。
計	150			計	150			

認定看護師教育基準カリキュラム（特定行為研修を組み込んでいない教育課程：A 課程教育機関）
新旧対照表（救急看護分野）

改正箇所：下線部

【学内演習】

旧				新				改正理由
教科目	時間数	教科目のねらい	単元	教科目	時間数 必修/選択	教科目のねらい	単元	
学内演習	75	1）看護過程に基づいた意図的な目標指向型の思考と客観的な評価・修正を理解し実践できる。 2）論理的、科学的方法を基本とした証拠（事実）に基づく判断をすることができる。 3）探究的態度を保ち、系統立った方法で熟慮と洞察を深めることができる。 4）公平さ、謙虚さ、共感的、知的誠実さ、柔軟性のある思考態度を身につける。 5）使用する用語の定義や概念を理解した上で的確な表現ができる。 6）文献等の根拠を基にしながら、科学的・論理的な事例展開を実践できる。 7）臨床現場に活用できる救急看護技術指導案を作成できる。実際の看護実践をレポートとしてまとめることができる。	1）救急看護領域における問題解決プロセス （1）クリティカルシンキング （2）看護過程の思考プロセスに基づく問題解決 2）事例展開 事例を通して科学的･論理的な看護を展開する。 3）救急看護技術指導案の作成 4）ケースレポート 臨地実習期間中に経験した事例 1 例について、論文形式にまとめ、発表する。	学内演習	75 （必修）	1）看護過程に基づいた意図的な目標指向型の思考と客観的な評価・修正を理解し実践できる。 2）論理的、科学的方法を基本とした証拠（事実）に基づく判断をすることができる。 3）探究的態度を保ち、系統立った方法で熟慮と洞察を深めることができる。 4）公平さ、謙虚さ、共感的、知的誠実さ、柔軟性のある思考態度を身につける。 5）使用する用語の定義や概念を理解した上で的確な表現ができる。 6）文献等の根拠を基にしながら、科学的・論理的な事例展開を実践できる。 7）臨床現場に活用できる救急看護技術指導案を作成できる。実際の看護実践をレポートとしてまとめることができる。	1）救急看護領域における問題解決プロセス （1）クリティカルシンキング （2）看護過程の思考プロセスに基づく問題解決 2）事例展開 事例を通して科学的・論理的な看護を展開する。 3）救急看護技術指導案の作成 4）ケースレポート 臨地実習期間中に経験した事例 1 例について、論文形式にまとめ、発表する。	
計	75			計	75			

認定看護師教育基準カリキュラム（特定行為研修を組み込んでいない教育課程：A 課程教育機関）
新旧対照表（救急看護分野）

改正箇所：下線部

【臨地実習】

旧				新				改正理由
教科目	時間数	教科目のねらい	単元	教科目	時間数 必修/選択	教科目のねらい	単元	
臨地実習	180	1) 看護過程に沿った救急看護実践を行い、認定看護師として熟練した実践を行うための、アセスメント能力およびケア能力を身につける。 2) 臨床看護師への技術指導を通して、臨床事例の問題解決をすることができる。	1) 以下の看護経験を通して、アセスメント能力およびケア能力を確実なものにする。 (1) 初療看護（3 事例） (2) 救急患者の急性期看護（1 事例） (3) 院内トリアージ（5 事例） (4) 上記（1）、（2）、「プレホスピタルケア」から 2 事例を選択する。 2) 救急看護技術指導（1 回以上）	臨地実習	180 （必修）	1) 看護過程に沿った救急看護実践を行い、認定看護師として熟練した実践を行うための、アセスメント能力およびケア能力を身につける。 2) 臨床看護師への技術指導を通して、臨床事例の問題解決をすることができる。	1) 以下の看護経験を通して、アセスメント能力およびケア能力を確実なものにする。 (1) 初療看護（3 事例） (2) 救急患者の急性期看護（1 事例） (3) 院内トリアージ（5 事例） (4) 上記（1）、（2）、「プレホスピタルケア」から 2 事例を選択する。 2) 救急看護技術指導（1 回以上）	
計	180			計	180			

共通科目	120 時間（＋360 時間）
専門基礎科目	120 時間
専門科目	150 時間
学内演習	75 時間
臨地実習	180 時間
総時間	645 時間（＋360 時間）

共通科目	105 時間（＋305 時間）
専門基礎科目	120 時間
専門科目	150 時間
学内演習	75 時間
臨地実習	180 時間
総時間	630 時間（＋305 時間）